

PAR-08

セブン&アイグループのデジタル戦略を支えるインフラチームのAWS活用と組織づくり

菊池 修治

クラスメソッド株式会社
AWS事業本部 本部長

坂井 勇登

株式会社セブン&アイ・ネットメディア
クラウド・ソリューション部



菊池 修治

クラスメソッド株式会社

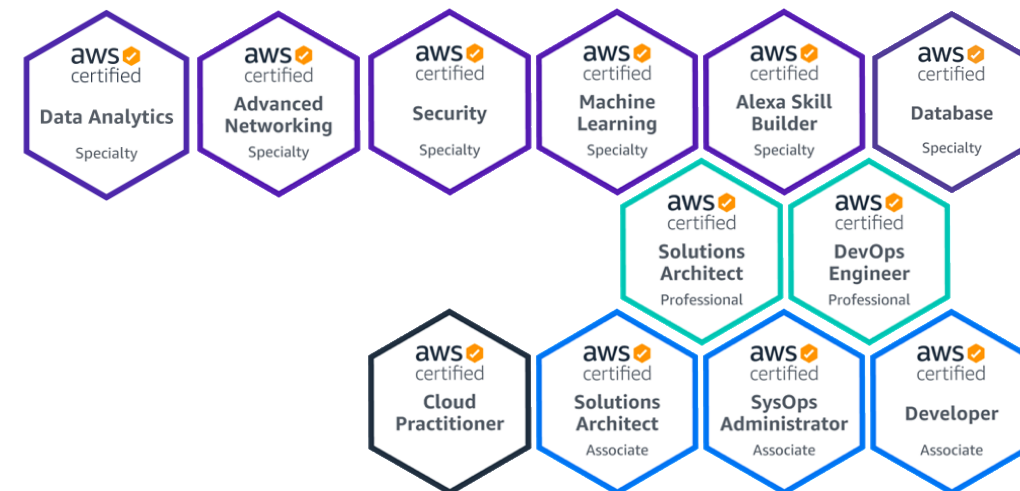
AWS事業本部 本部長

2019 APN Ambassadors

2020 APN ALL AWS Certifications Engineer

2021 APN ALL AWS Certifications Engineer

SIer にてプロジェクトマネージャ、
自動車メーカーにてカーナビ向け情報配信サービスの
インフラエンジニアを経て現職





オープンな発想と高い技術力によりすべての人々の創造活動に貢献し続ける

名称 クラスメソッド株式会社
(英語表記: Classmethod, Inc.)

代表者 横田 聡

設立 2004年7月7日

本社 東京都千代田区神田佐久間町1丁目11番地
産報佐久間ビル8階

拠点 東京、札幌、大阪、岡山、福岡、上越、沖縄、
ベルリン（ドイツ）、バンクーバー（カナダ）、
ニューデリー（インド）、バンコク（タイ）、ソウル（韓国）

資本金 1億円

従業員 593名（2022年1月時点/グループ全体）

事業内容

- ・ クラウド（AWS等）の技術コンサルティング、開発、運用
- ・ データ分析基盤の技術コンサルティング、開発、運用
- ・ アプリケーション（LINE、iOS等）の企画開発、運用
- ・ SaaS、Webサービスの企画開発、導入支援、運用
- ・ 企業向けIT人材育成、内製化支援
- ・ 無人店舗技術・キャッシュレス決済システムの企画開発、運営

**子会社
および
関連会社**

アノテーション株式会社 (<http://an.classmethod.jp/>)
アンダースコア株式会社 (<https://us.classmethod.jp/>)
プリズマティクス株式会社 (<https://prismatix.jp/>)
ネクストモード株式会社 (<https://nextmode.co.jp/>)
Classmethod (Europe) GmbH (<https://classmethod.de/>)
Classmethod Canada Inc. (<https://www.classmethod.ca/>)

認定





「AWS Service Partner of the Year-Japan」を受賞しました。

本アワードは、年間を通じて営業・技術・マーケティング分野など、パートナーとしての総合力でAWSの国内ビジネスに最も貢献したAPNコンサルティングパートナーに与えられるものです。

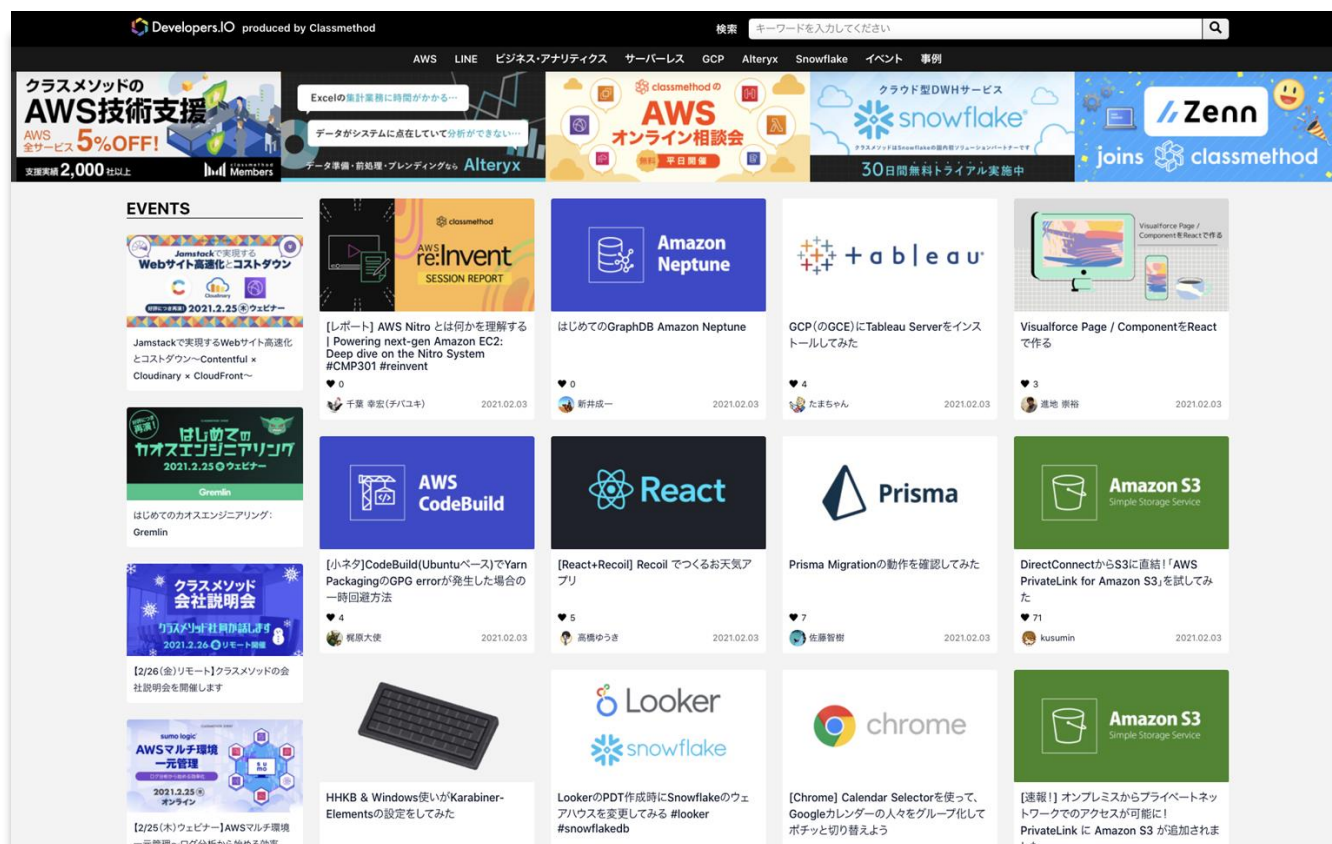
クラスメソッドは2018年、2020年にも同賞を受賞しており、今回は3回目となります。



「AWSプレミアティアサービスパートナー」に8年連続で認定されました。

プレミアティアサービスパートナーは、10,000社を超えるAWSパートナーの中で最も優れた功績を残した企業が選定されるもので、2022年1月時点で世界で128社、日本で12社認定されています。

オープンな発想と高い技術力によりすべての人々の創造活動に貢献し続けるために、
DevelopersIOでは、日々多くの技術情報を発信し続けています。



月間**300**万PV、**100**万UU

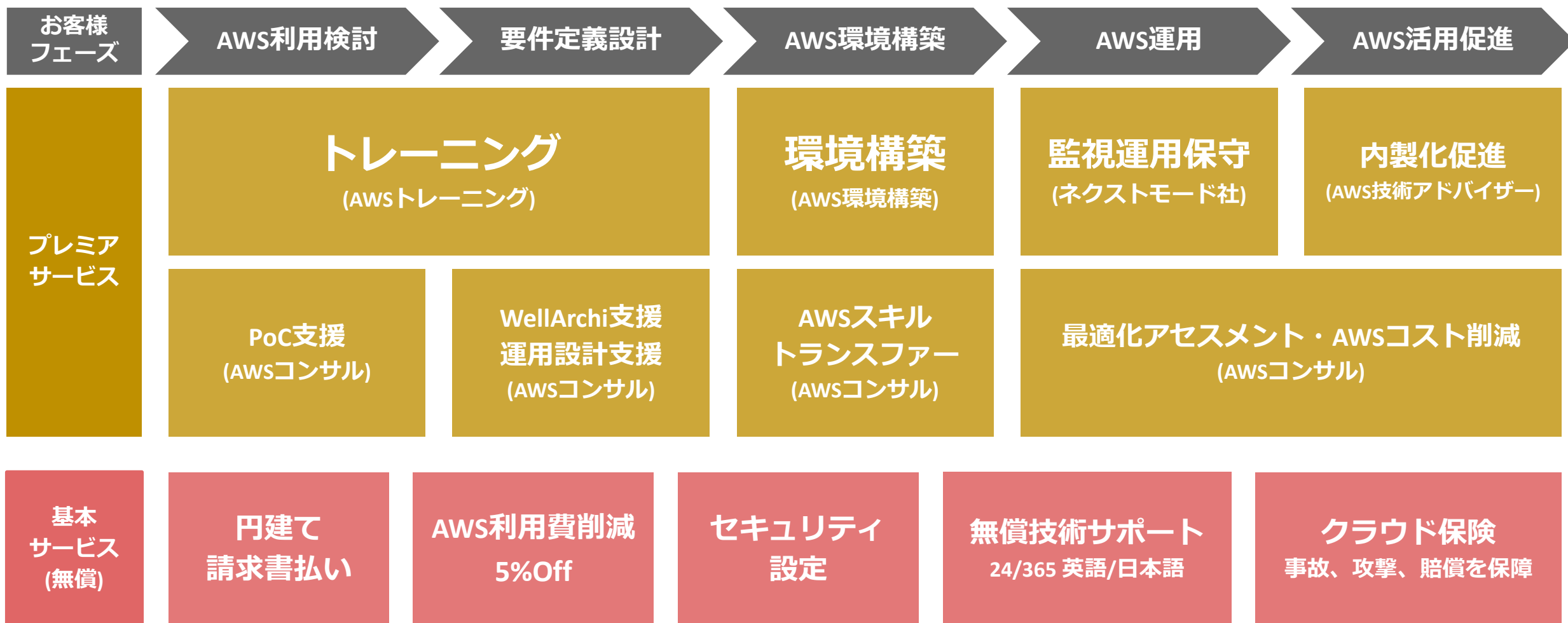
累計記事数**30,000**本

+



AWSをより**安く**、より**正しく**、より**深く** 活用頂くため

AWS利用検討フェーズから活用促進フェーズまで**ワンストップ**で支援します。



セブン&アイグループのデジタル戦略を支える インフラチームのAWS活用と組織づくり

株式会社セブン&アイ・ネットメディア
クラウド・ソリューション部 坂井勇登

■ 登壇者プロフィール

- 所属

株式会社セブン&アイ・ネットメディア
クラウド・ソリューション部 CS1チーム

- 氏名

坂井 勇登

- 仕事内容

◆グループ ホームページやモバイルアプリのインフラ構築・保守

- 経験、技術領域

◆コンテナ基盤

◆CI/CD

◆IaC (Infra Structure as Code)



株式会社セブン&アイ・ネットメディアに関して

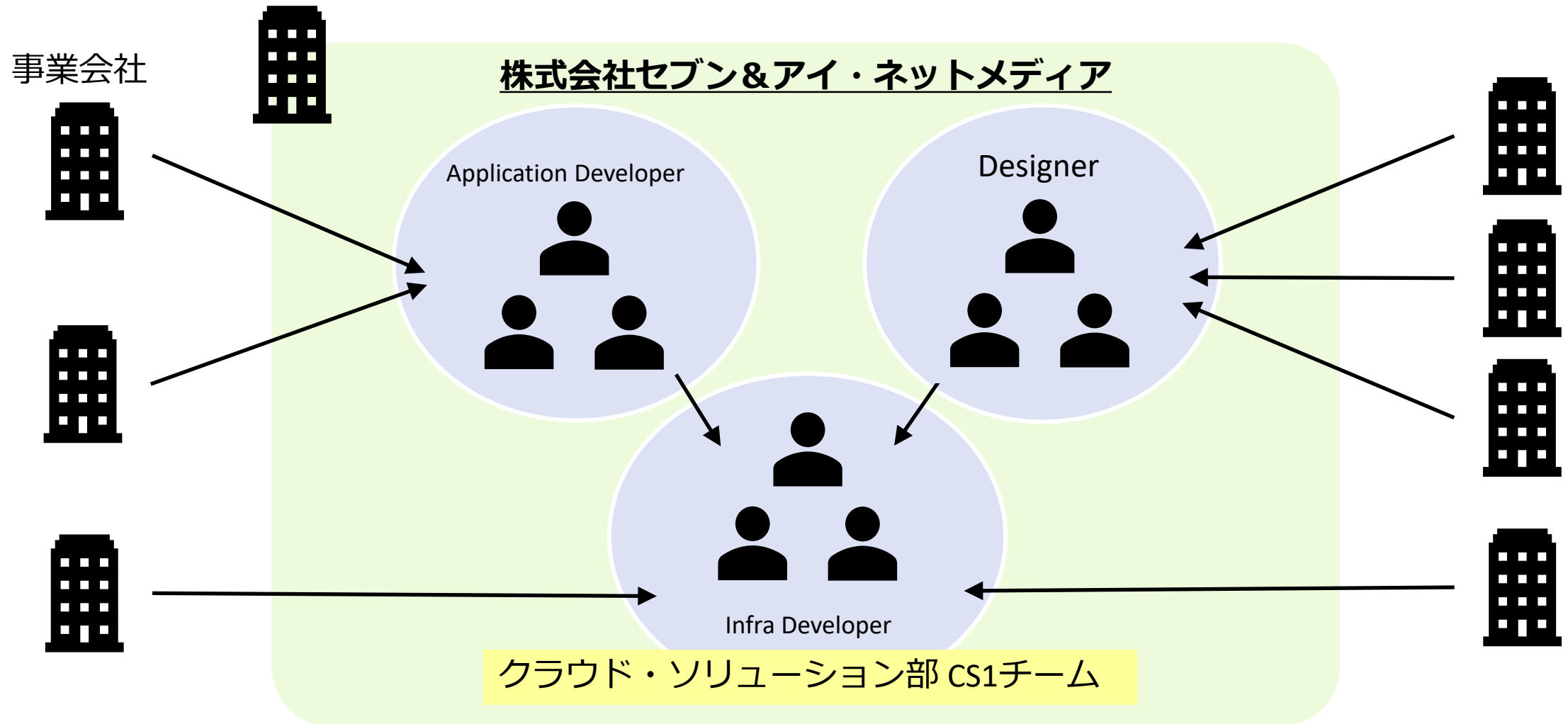
■ 会社概要

会社名	株式会社セブン&アイ・ネットメディア (Seven & i Net Media Co.,Ltd.)
設立年月	2008年7月11日
資本金	76.65億円
従業員数	222名（2022年3月1日現在）
代表取締役	田口 広人
事業内容	セブン&アイグループのデジタル戦略を支えるシステム企画、デザイン、開発、運用



<https://www.7andinm.co.jp/company/index.html>

主にクラウドのインフラ構築案件を担当。
構築依頼は様々な会社・部署から来ており、担当業務は多岐にわたる。



2020年

- ◆ 国産クラウドに共通基盤構築
- ◆ 一部プロジェクト（個人単位）でIaC導入
- ◆ 各事業会社システムの構築・運用開始

2021年

- ◆ インフラ基盤を国産クラウドからAWSへ移設開始
- ◆ AWS上での運用も開始

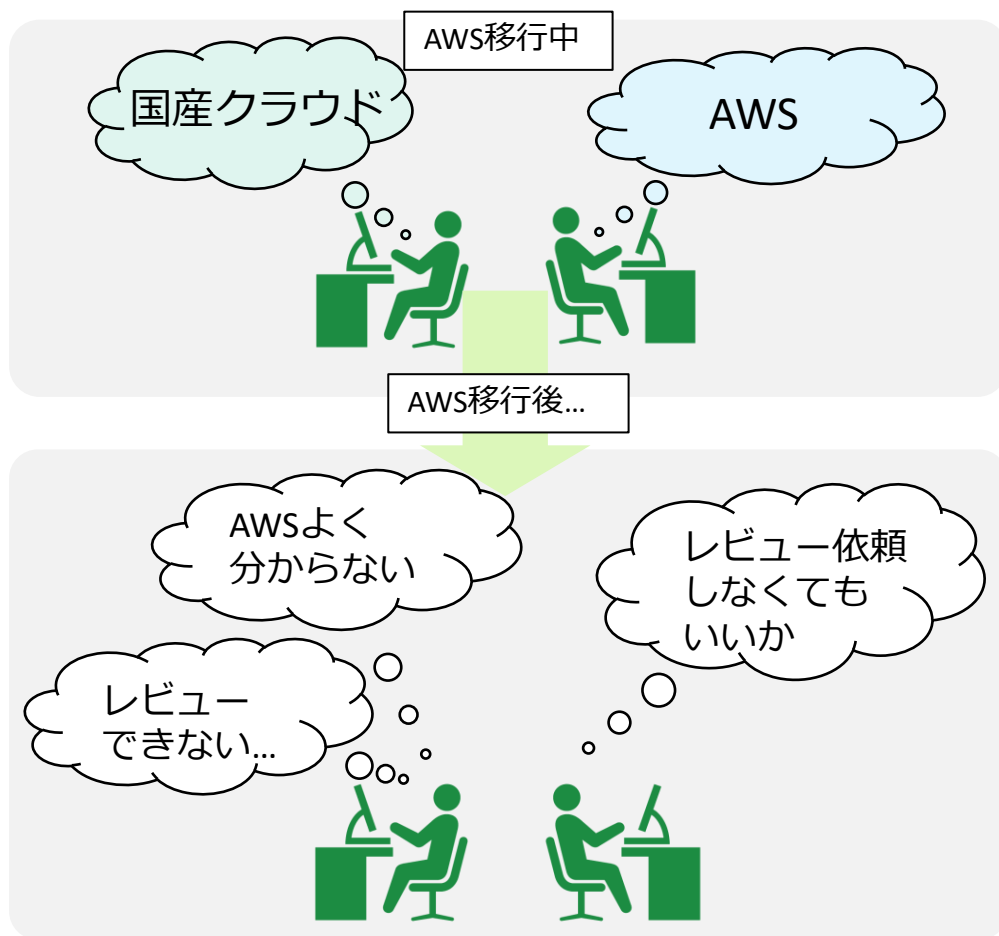
現在

- ◆ AWS移設済みシステムの運用
- ◆ 他システムのAWS移設と新規案件のAWS構築
- ◆ チーム内カイゼン活動 ★

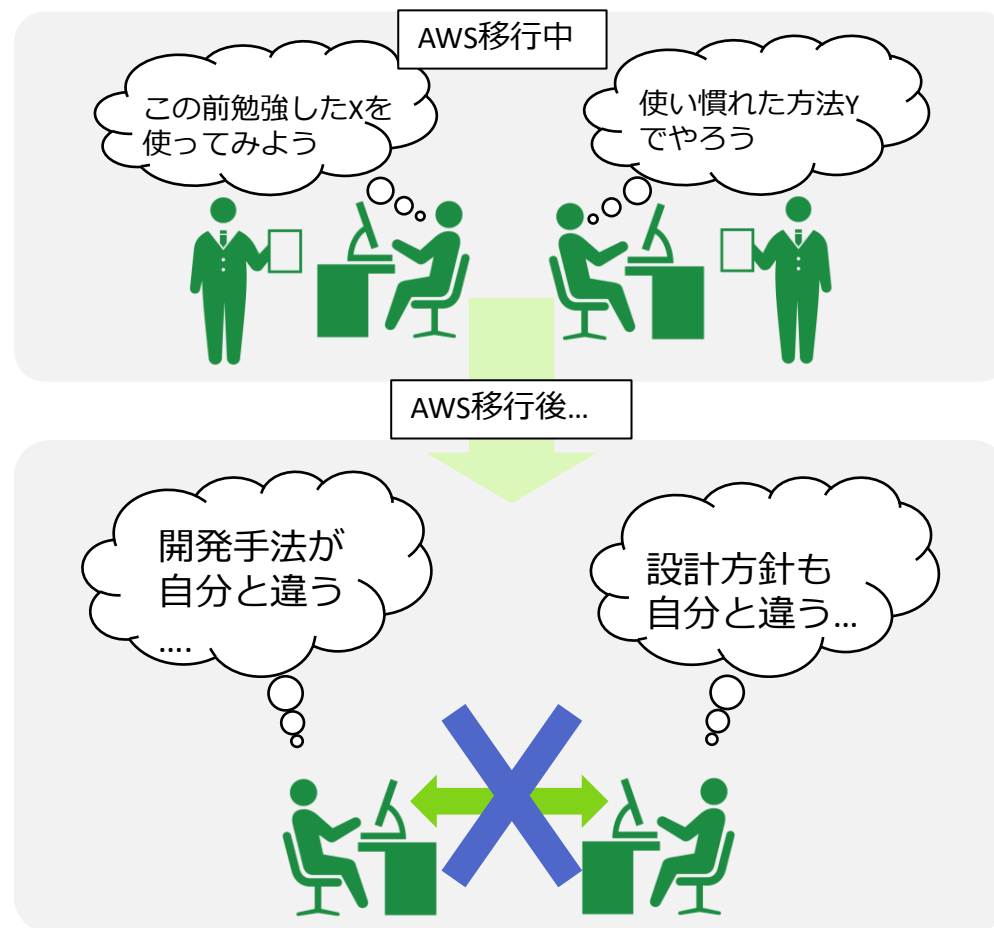
■ 業務の属人化

● 2種類の属人化

技術的な要因による属人化

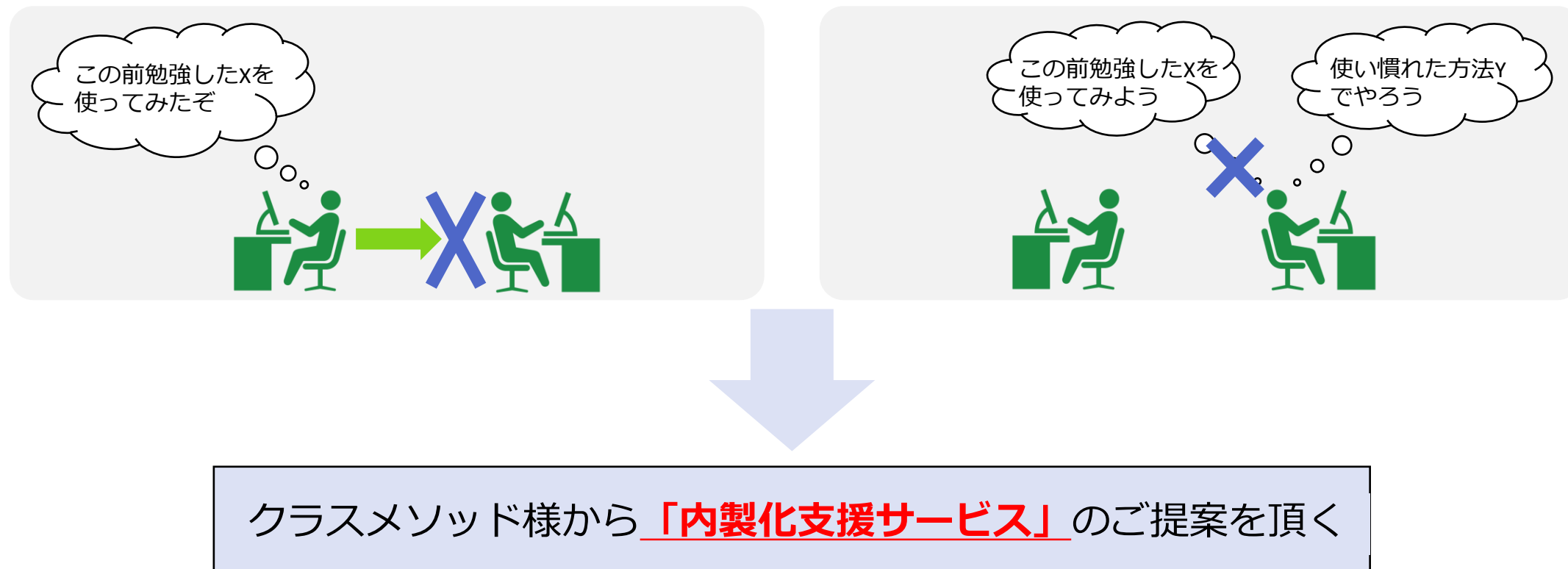


体制面・文化的要因による属人化



■ 「チームとして」学習する文化の未定着

- 「個人で」の挑戦・学習は出来ているが、チームへの横展開が少ない
- 研修推奨の文化はあるものの、実プロジェクトへのフィードバックは稀



ヒアリング / コーチング 【週1h / 隔週1h】

- ◆ チーム内状況を各担当者ごとにヒアリング
- ◆ チームのスキルアップ計画策定のご支援
- ◆ ヒアリングを元に担当者にあったコーチング

チームのコンピテンシー整理

- ◆ 業務で必要な技術と現状の個人のコンピテンシーを見える化
- ◆ 強化すべきコンピテンシーの整理

技術的支援

- ◆ AWS領域の技術サポート
- ◆ チームマネジメントの技術支援



■ 高柳 謙 (たかやなぎ けん) 様

内製化支援コーチ / ファシリテーター / 研修講師

開発ベンダー、公共系SIer、ソーシャルゲーム企業にてシステム開発や研修講師に従事。

その後独立し、研修内製化の支援、顧問ファシリテーターを企業向けに展開。

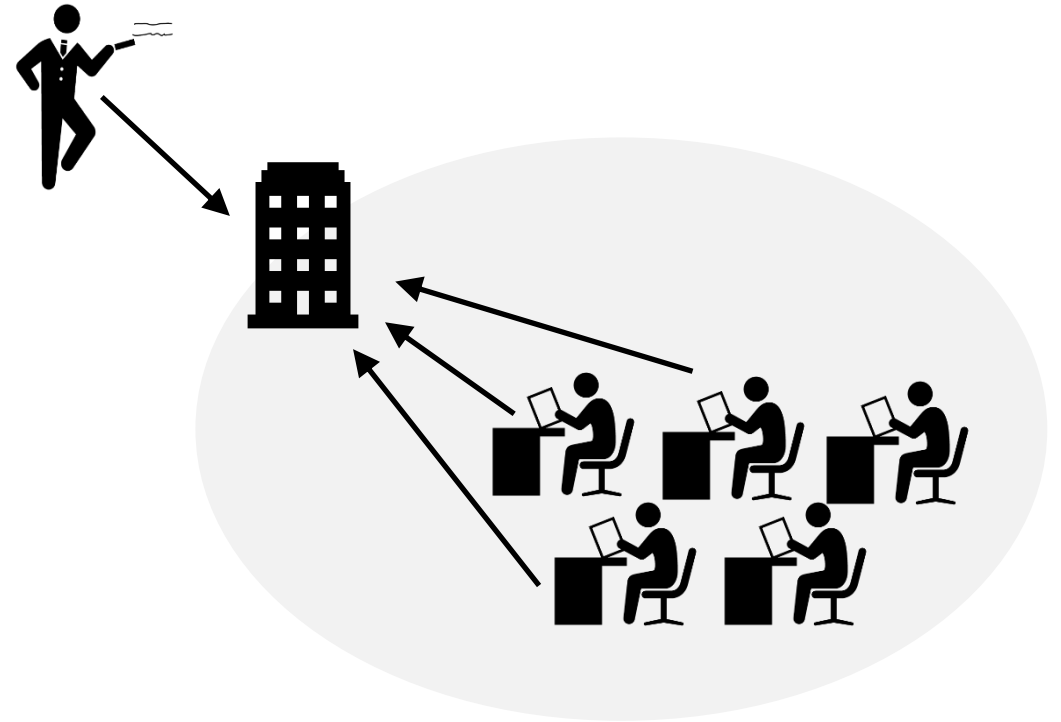
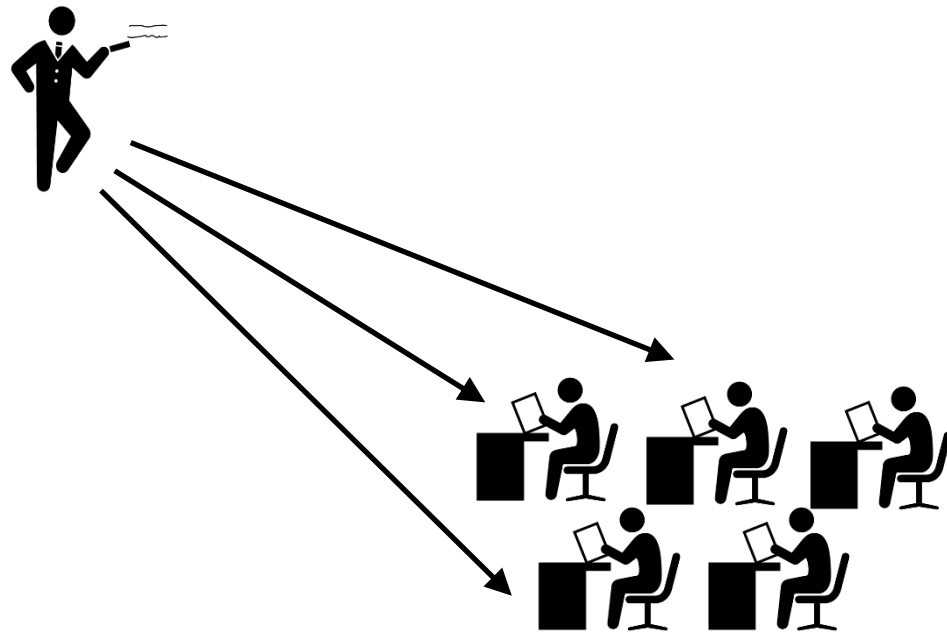
組織が主体性を持った活動ができるよう「対話（ダイアログ）」を重視した手法を得意としている。

クラスメソッド様との取り組み その1

～チームのコンピテンシー整理～

Management3.0

「managing the system, not the people」 = 「人ではなく、システムをマネージすべき」



人が出入りのたびに教育し直すのではなく、自然と教育される組織を作る

■ チームのコンピテンシーを見える化

- コンピテンシー = 「個人特性としてのキャパシティ」

例) プログラムが書ける、部門間調整が出来る、会議のファシリテーションが出来る etc...

- レベル付け

見習い： 何も知らない。

職人： 自分で出来る。

達人： 人に教えられる。

- コンピテンシーマトリクス

チームメンバー毎のコンピテンシーをマトリクス化

例: インターネットカフェ						
		Hugo	Emma	Carl	Mary	Judy
ITシステム	<div><div></div><div></div><div></div></div>					
経理業務	<div><div></div><div></div><div></div></div>					
バリスタ	<div><div></div><div></div><div></div></div>					
機材(店舗用品)	<div><div></div><div></div><div></div></div>					
調理	<div><div></div><div></div><div></div></div>					

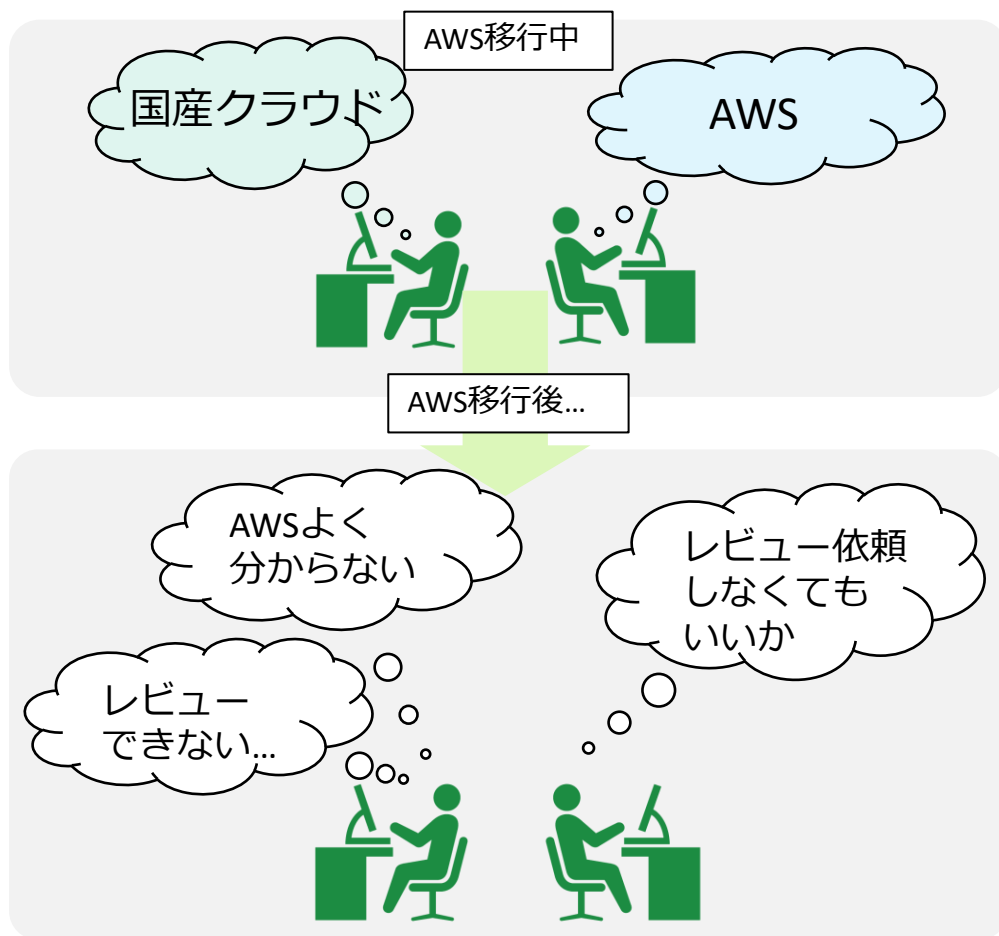


大事なのは、「何をどう学ぶのか」 導き、「学習の習慣」 を定着させること

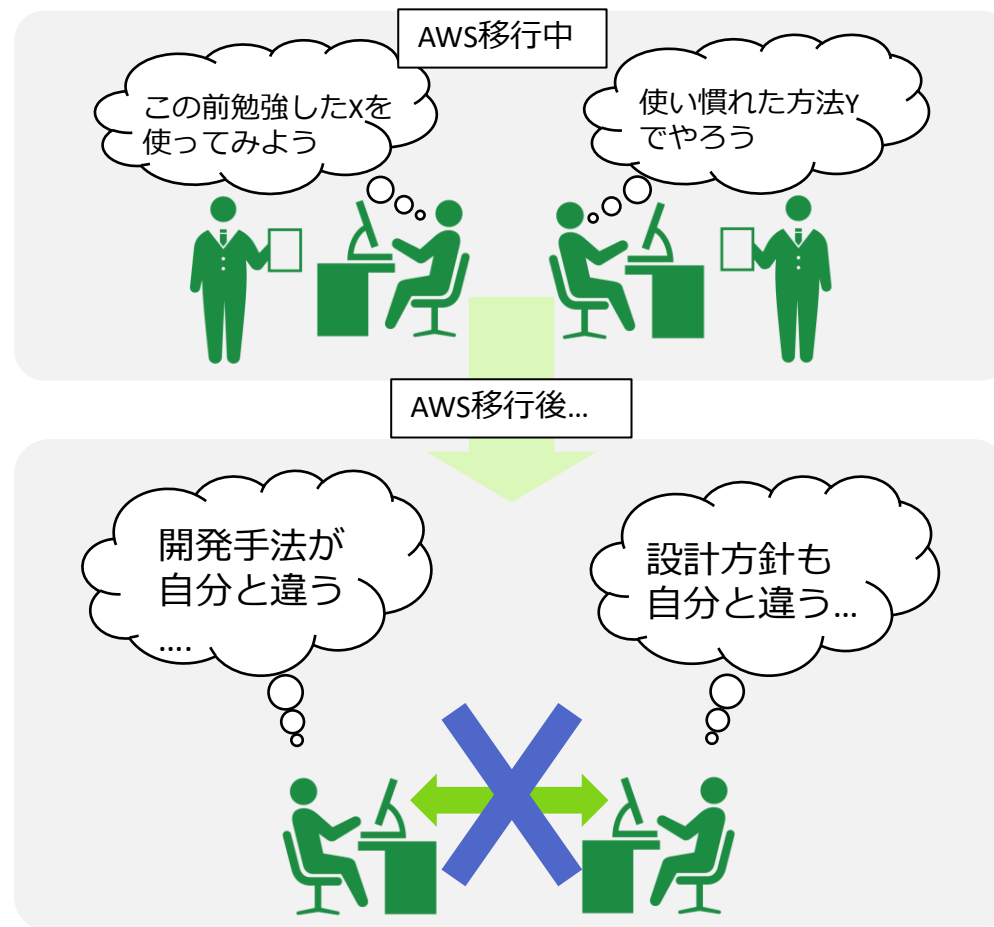
■ 業務の属人化

● 2種類の属人化

技術的な要因による属人化



体制面・文化的要因による属人化



■ コンピテンシーマトリクスの作成

1. 技術的な要因 → 技術的なコンピテンシーに特化

属人化の原因が技術的スキルにあったため、スキルギャップを埋めたい。

2. 文化体制的な要因 → チーム全体としてみる粒度の大きいコンピテンシー

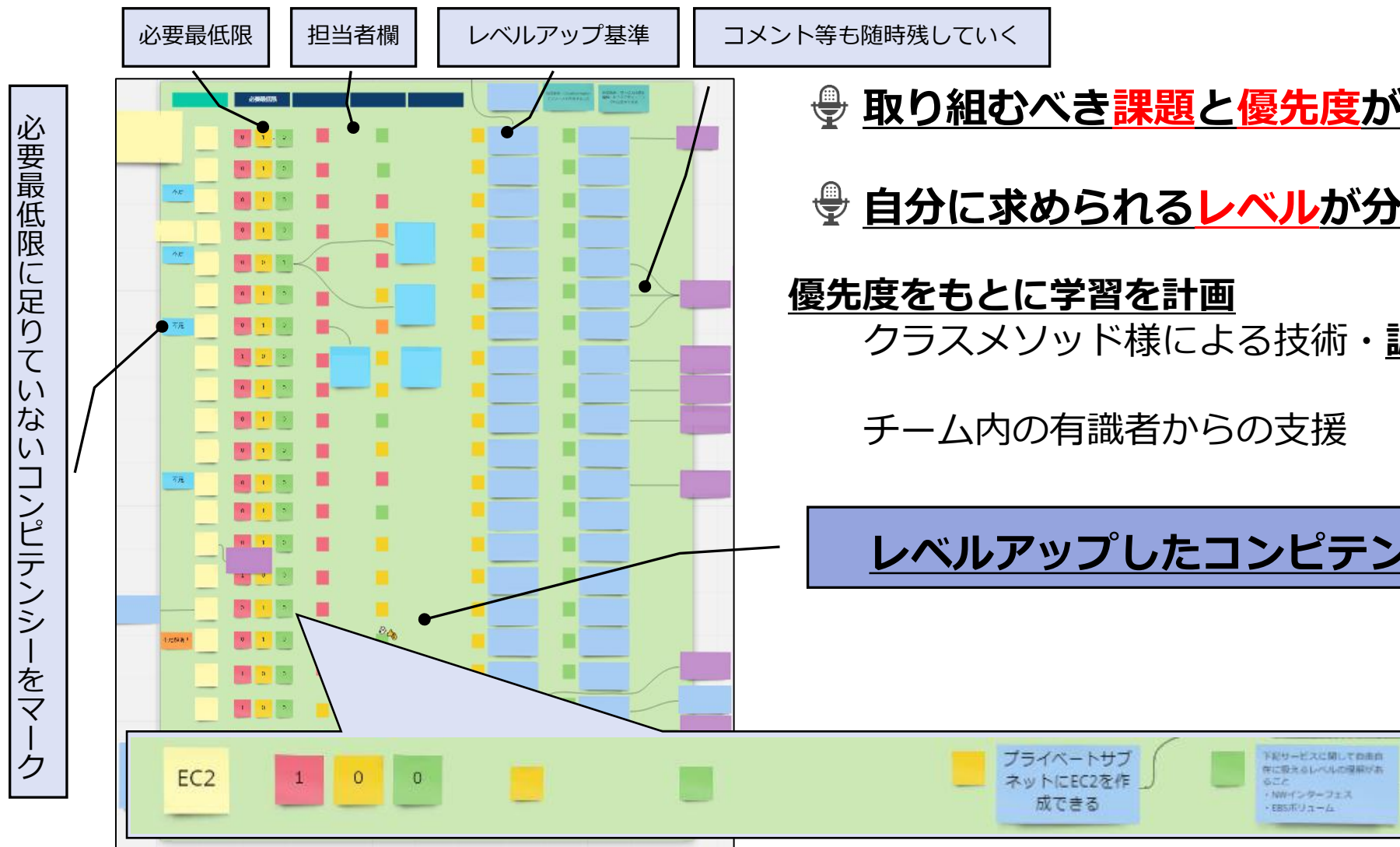
チーム体制が完全に分かれてしまっており、プロジェクトへの関わり方、担当フェーズも人それぞれ。全体像が見えるようにし、情報共有を図りたい。

1	担当者A	担当者B
EC2	1	0
ECS	0	1
git	0	1
Ansible	1	0

2	担当者C	担当者D
要件定義	0	1
設計	0	1
構築	1	0
試験	1	0

チームのスキルアップ計画 成果物

■ 技術的側面



🎤 取り組むべき課題と優先度が分かりやすくなった

🎤 自分に求められるレベルが分かりやすくなった

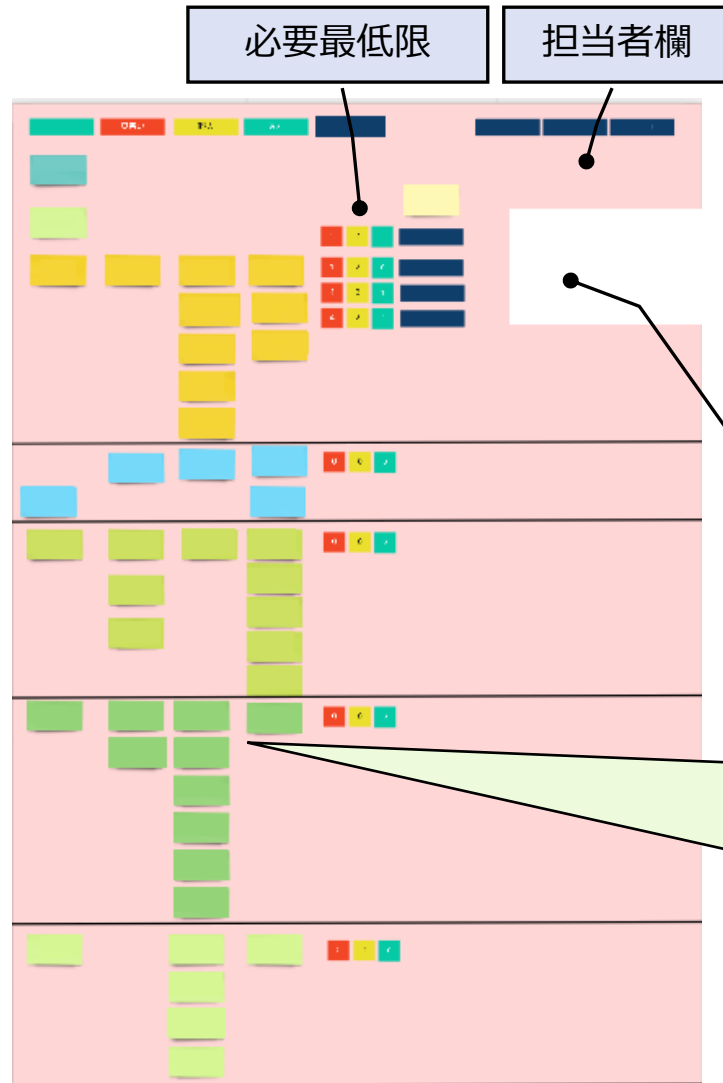
優先度をもとに学習を計画

クラスメソッド様による技術・調べ方のご支援

チーム内の有識者からの支援

レベルアップしたコンピテンシーにはチェック

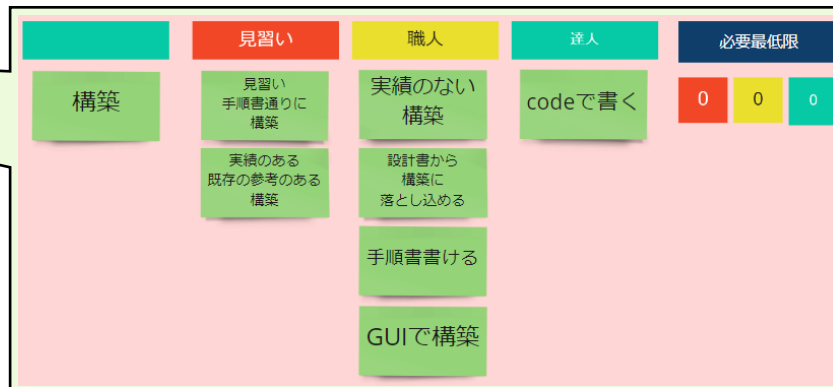
■ 体制・文化的側面



🎤 チーム内に存在するタスクの全体像が見えてきた
(入社当時に参照しなかった)

🎤 プロジェクトの各フェーズに関して共通言語化が出来てきた

コメント等も随時残していく



クラスメソッド様との取り組み その2

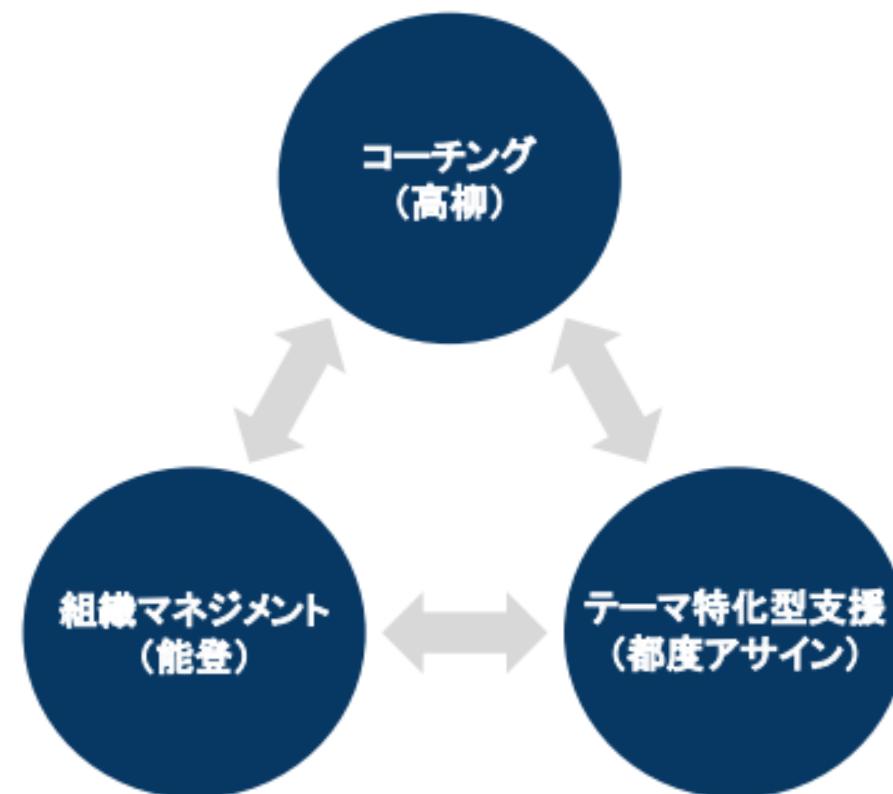
～AWS技術支援～

■ モダンアプリケーション開発支援

- 特定プロジェクトでの技術支援
- CI/CD環境の検討・導入支援（チームに適した形のハンズオン研修）

■ テーマ特化型支援 + マネジメント支援

- インフラ共通設定検討とガイドライン化支援
- AWSセキュリティ設定・ガイドライン化支援

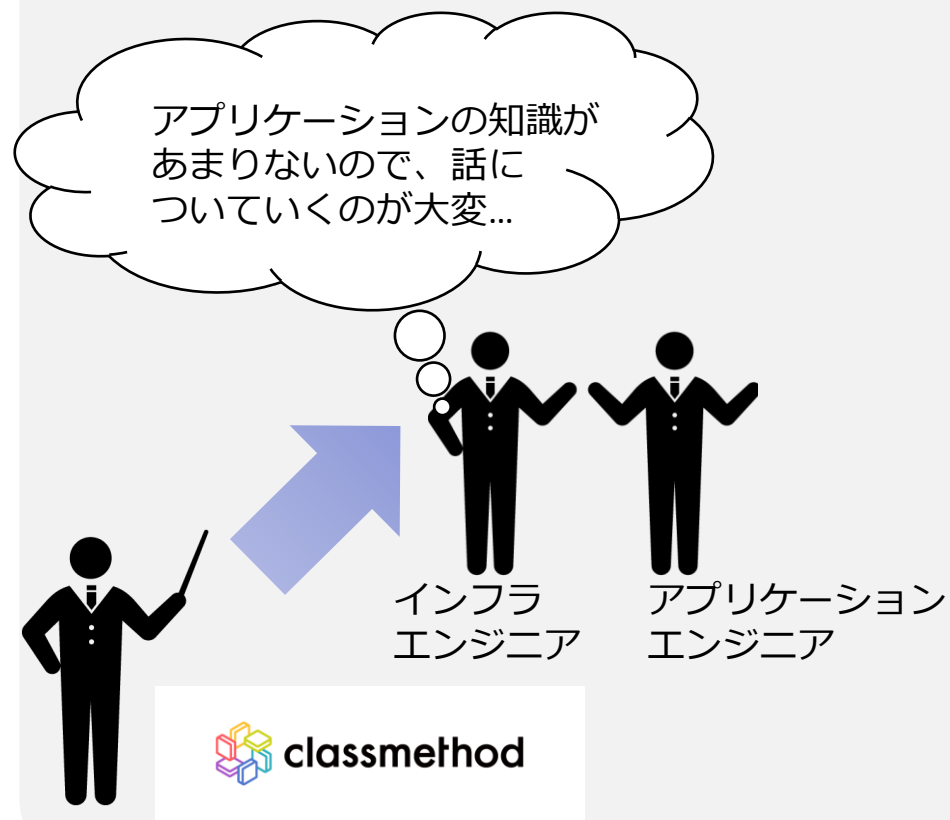


■ 特定プロジェクトでの技術支援

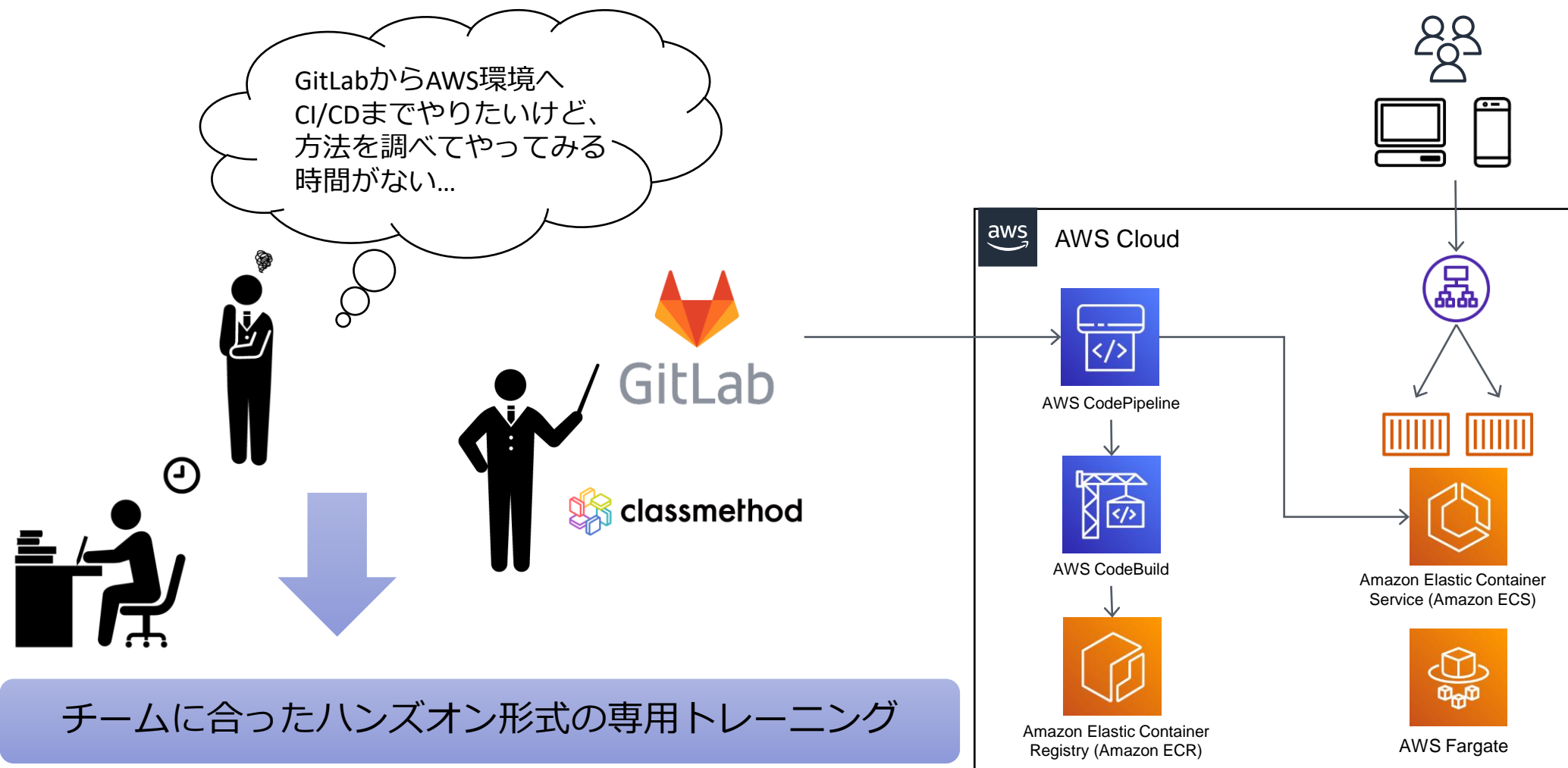
AWSサービスの知見支援



アプリケーションの知見支援



■ CI/CD環境の検討・導入支援（チームに適した形のハンズオン研修）



- インフラ共通設定検討とガイドライン化支援
- AWSセキュリティ設定・ガイドライン化支援



インフラ共通設定検討とガイドライン化支援



classmethod

本当に必要な
ことを議論



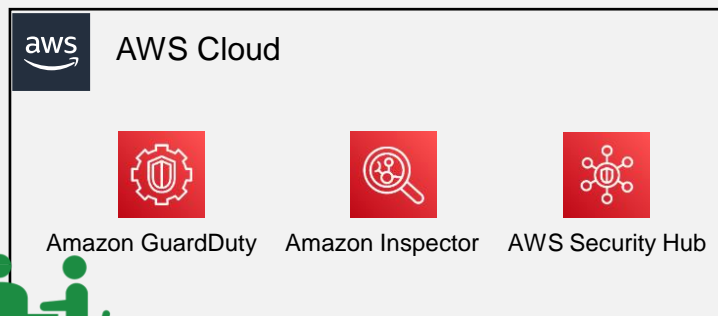
分担して作成



AWSセキュリティ設定・ガイドライン化支援



classmethod



■ テーマ特化型支援

- 未経験のAWSサービスに対して知見の提供と迅速なQ&A対応
- GitLabのパイプラインを自分たちのAWS環境に構築



■ マネジメント支援

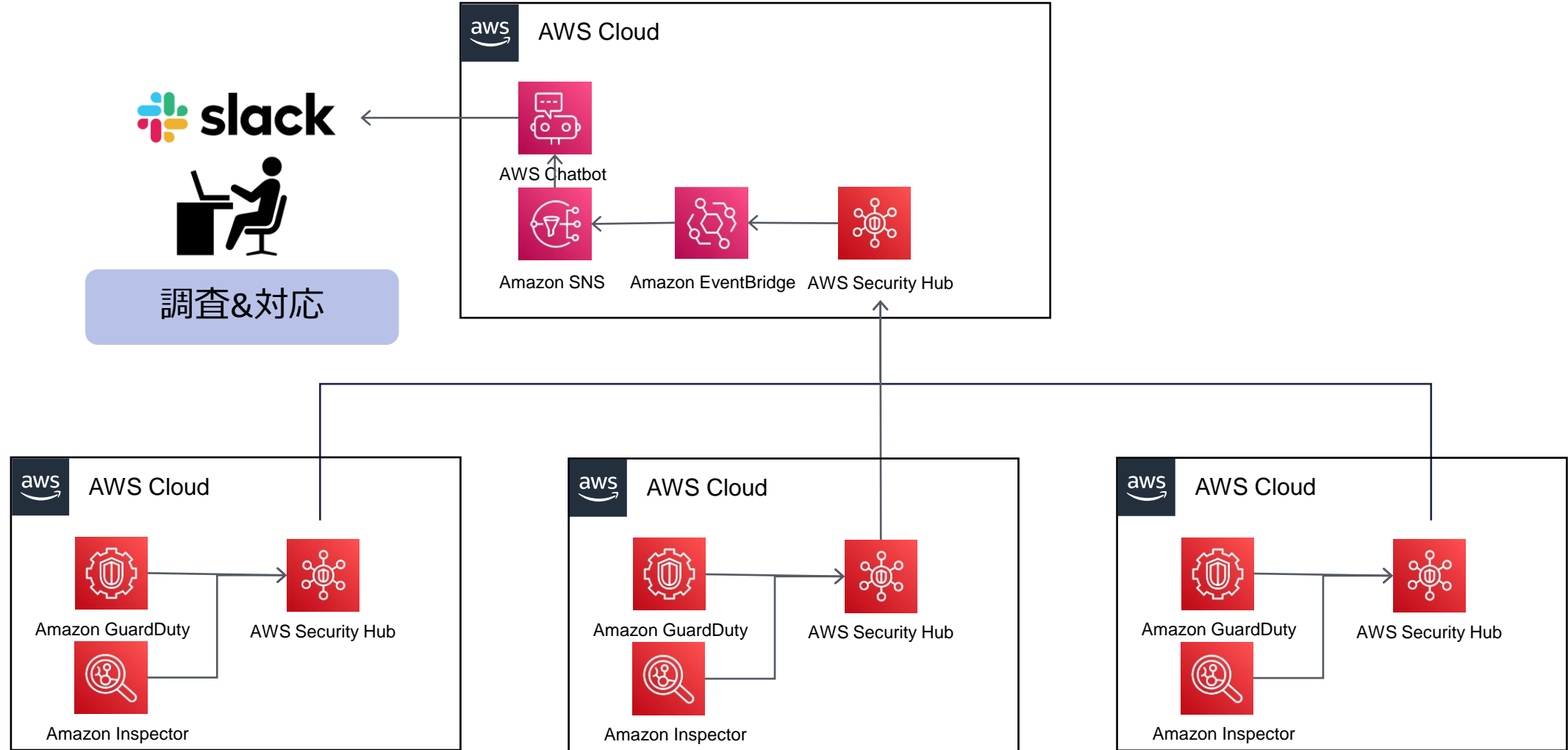
- チーム内で抱える課題の抽出と解決に向けたアプローチ方法を実践
- チームガイドライン / セキュリティガイドラインが利用される仕組みづくり

必要な事や悩んだ経験等をヒアリング



【内製化支援】タスク一覧		以下の項目を1~3でランク付けする				
No	項目	評価基準				合計点
		緊急度 (期限があるか)	重要度 (効果があるか)	少ない工数で 出来るか	適用する予定 があるか	
1	例	3	3	3	3	12
	作業工数					
2		1	2	3	2	8
3	料金見積もり	1	2	3	2	8

■ AWSのマルチアカウントに対して統一的な管理を現在検討中



- チーム文化・習慣の改善に共通の答えはない
- 本当に必要なことをスモールスタートで開始していく（何ごともまずはやってみる事が大事）
- チームに合ったやり方は、チームで考え、チームで決める
- 上手く行かなかったら、「止める・別の事を試す」



classmethod

サービス > 一覧を見る

- AWS総合支援**
 - > AWS請求代行サービス
 - > AWS技術アドバイザー
 - > AWSコンサルティング
 - > AWS運用代行・監視
 - > AWSセキュリティ
 - > AWSマイグレーション
 - > AWSトレーニング
 - > Amazon Connect構築支援
 - > クラウド最適化アセスメント
 - > メンバーズサポート
- LINEサービス総合支援**
 - > LINEミニアプリ開発
 - > チャットボット開発支援
 - > CX ORDER
- アプリケーション開発**
 - > iOS/Androidアプリケーション開発
 - > MAD（モダンアプリケーション開発）
 - > AWS IoT開発支援
 - > AmazonAlexaスキル開発
- データ分析環境構築支援**
 - > データ統合基盤CSアナリティクス
 - > CSアナリティクスDataUploader
 - > オーダーメイド基盤開発
 - > 機械学習システム導入支援
 - > Alteryx
 - > Fivetran
 - > Looker
 - > Snowflake
 - > Tableau
- 内製化支援**
 - > SaaS導入コンサルティング
 - > Sumo Logic
 - > Auth0
 - > トレンドマイクロ
 - > Dome9
 - > Cloudinary
 - > New Relic
 - > Gremlin

<https://classmethod.jp/services/>



SEVEN & i HOLDINGS

セブン&アイ *Net Media*

Copyright Seven & i Net Media Co., Ltd. All Rights Reserved

〒102—8436

東京都千代田区二番町4番地5

住友不動産二番町ファーストビル2F

<https://www.7andinm.co.jp>



なぜ、内製化が必要なのか？

従来のITシステムはコストとなるものだった

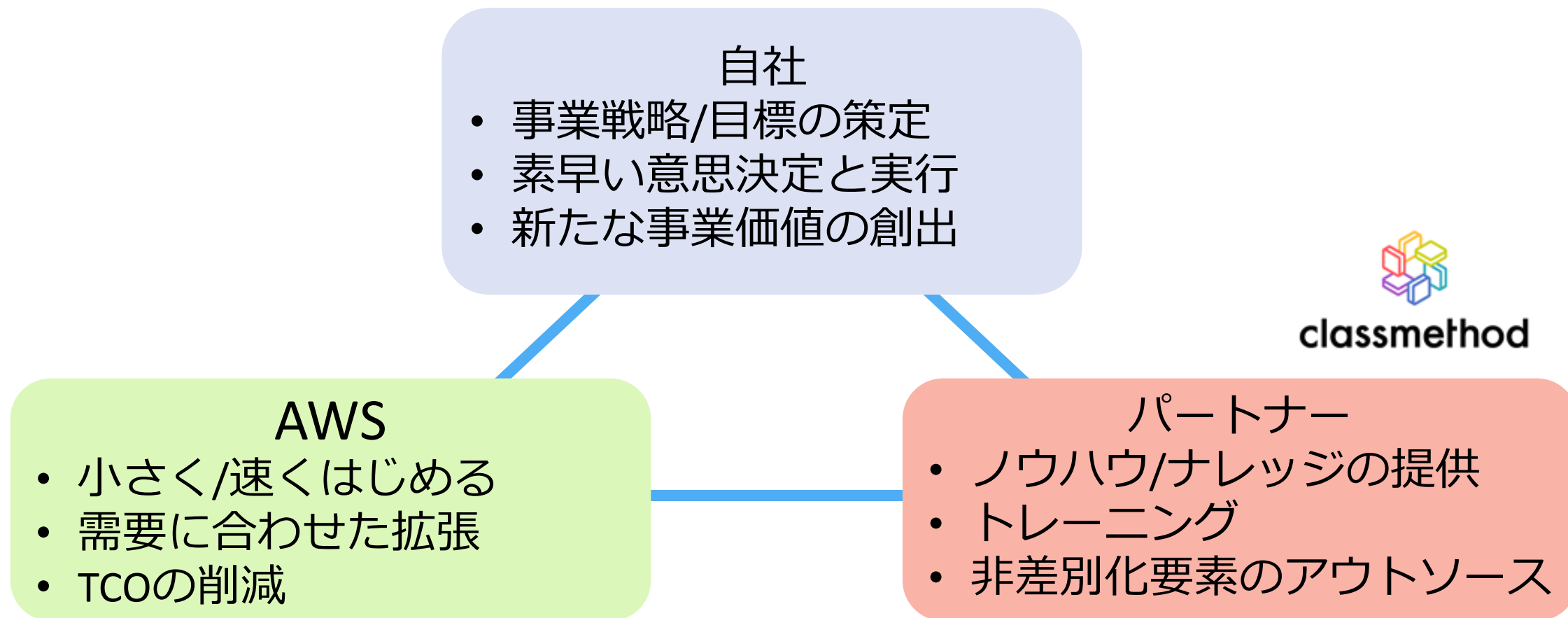
事業としてのITシステムは売上・利益を生み出すもの

事業を成功させるためには、素早く世の中に出してフィードバックを受けながら短いサイクルでのトライアンドエラーが不可欠

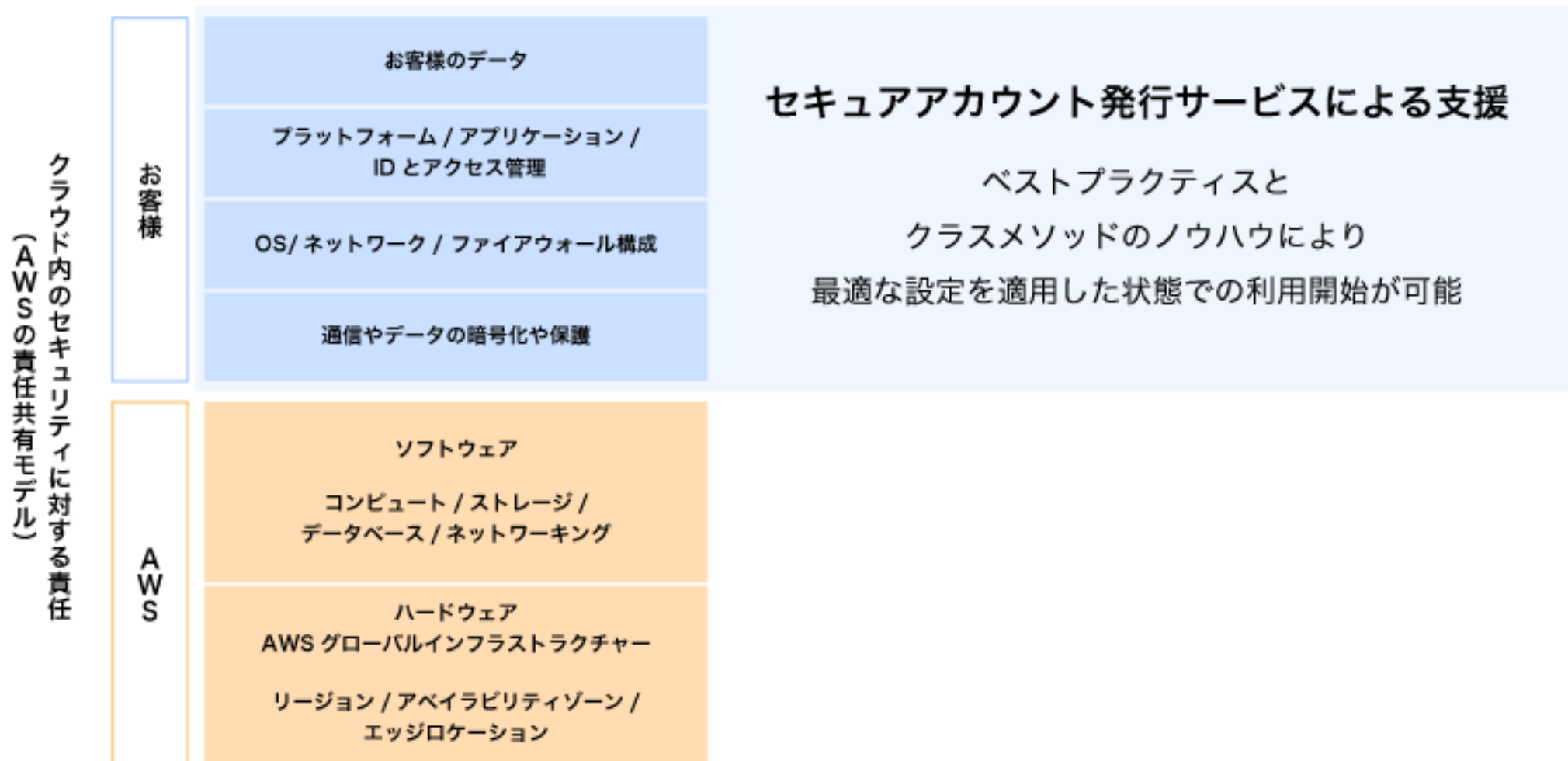
クラウド と **内製化** で **差別化** すべきものに注力する



外部に丸投げでは実現できない
すべてを自社内だけでやるのは難しい



推奨されるセキュリティ設定をあらかじめ適用することで、
AWSをより**安全**、より**安心に**、より**素早く** 活用頂くことが可能です。



AWSをより**安く**、より**正しく**、より**深く** 活用頂くため

AWS利用検討フェーズから活用促進フェーズまで**ワンストップ**で支援します。



**オープンな発想と高い技術力により
すべての人々の創造活動に貢献し続ける**

Thank you!

菊池 修治

クラスメソッド株式会社
AWS事業本部 本部長

坂井 勇登

株式会社セブン&アイ・ネットメディア
クラウド・ソリューション部

